

# 平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

## 1. 学校概要

学校名 大阪府立 今宮高等学校 (※正式名称を記載)  
種 別  保育園・幼稚園  小学校  小中一貫<sup>※注1</sup>  
 中学校  中高一貫<sup>※注2</sup>  高等学校  
 教員養成大学  専修学校、各種学校  
 特別支援学校  
 その他 (例: 小中高一貫 )  
所在地 〒556-0013 大阪府大阪市浪速区戎本町 2-7-39  
E-mail \_\_\_\_\_  
Website http://www.osaka-c.ed.jp/imamiya/  
幼児児童生徒数 男子 267 名 女子 480 名 合計 747 名  
幼児・児童・生徒の年齢 15 歳～ 18 歳

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

## 2. 報告期間

平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月

※報告書提出時点～平成 30 年 3 月末までの活動は、予定 (見込み) として記載ください。

## 3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要 (800 字程度+活動内容を表す写真数枚)

※チェック事項 1-1、2-1 に対応

本校の課程である「総合学科」の特長 (幅広い科目選択) を生かし、1 年生の「産業社会と人間」、2 年生の「総合学習」およびユネスコの理念に関係する授業などを通し、ユネスコスクールが掲げている 21 世紀の学習 4 本柱 (◆知ることを学ぶ、◆試すことを学ぶ、◆人間として生きることを学ぶ、◆共に生きることを学ぶ) の育成を目標とした。

具体的には「知ることを学ぶ」を中心に①人権講演会、②台湾 (国立台東女子高級中学) との交流、③海外研修、④留学生の受け入れ等、⑤学年のユネスコ委員会の活動をした。

### ①人権講演会

1 年生の産業社会と人間の授業の中で、本校の近隣の地域を知るという観点から生田武志氏の講演会を毎年開催している。あいりん地域の状況を詳しく知ることができた。

## ②台湾（国立台東女子高級中学）との交流

4月下旬、姉妹校である国立台東女子高級中学が本校を訪れ、生徒と交流をした。交流にあたって、自治会部員およびユネスコ部、有志やクラブ員等で事前学習を行い、歓迎会等を開催した。お互い、学校の説明をしたあと、グループに分かれて校内見学、クラブ見学（参加）と異文化交流を経験できた。

## ③海外研修

8月にオーストラリア語学研修を10日間行った。4月から希望者を募集し、選考会や志を確認。選ばれたメンバーで現地へ。提携している学校を訪れ、シャドイングやホームステイを通じ、オーストラリアの文化や語学に浸り、経験をした。9月には文化祭があり、そこで、オーストラリア研修の発表を行い、他の生徒にも刺激を与えた。

## ④留学生の受け入れ

毎年ではないが、留学生を数名受け入れている。留学生ははじめ、日本語学校に通っているため、いっしょに授業へ参加することはない。その中で、生徒が関わり教え、教えられ、相乗効果があった（コミュニケーション能力）。授業参加になっていくと、分からない日本語を教えたりなどの経験に繋がる。World Studiesの授業では、自国の文化を説明し、本校生徒は「文化とは何なのか」ということに気付けるきっかけになっている。

## ⑤学年のユネスコ委員会

NGO「フリー・ザ・チルドレン」の文通プログラムに参加し、インドの子どもとの文通を一年間実施した。また、大阪ユニセフスクールネットワーク主催の「日中（中日）EDF-GAP 推進国際ワークショップ」に参加した。



②-1台湾（国立台東女子高級中学）との交流



②-2台湾（国立台東女子高級中学）との交流



③海外研修



④留学生の受け入れ

(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input checked="" type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input checked="" type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input checked="" type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他( )		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入 )	

ウ. 活動時間 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述 )	

エ. 使用した教材 (書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名)

--

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

本校の教育課程である「総合学科」の体系を生かし、ユネスコの理念に関係する授業を通じて刺激を与えている。授業に関しては、生徒が受講するかによって、継続的に授業が開講されるかが課題である。そのため、自治会活動や産業社会と人間、総合学習の中で、人権や異文化交流等のプログラムを通して、生徒への指導を継続的に行えるようにしている。

また留学生の受け入れも同様で、毎年ではないので不確定要素が多いものの、タイミングを大事にし、生徒へ還元できるようにしている。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

上記でも記入したように、授業の中で継続的に経験・活動できるかどうかの不確定要素があるため、自治会活動や産業社会と人間、総合学習の中で、人権や異文化交流等のプログラムに取り込んでいる。毎年、特に地域に関係するあいりん地域に関しては、活動をしている生田武志氏に講演いただいている。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

活動の質の向上のための学校活動の評価は、学校教育自己診断（3年生）において、「環境、国際理解、福祉ボランティアなどの学習する機会があった」の項目で4段階評価中上から4・3点の評価が70%以上あった。また、本校から、約1年間の海外への留学を考えた生徒が複数いた。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

活動成果の発表は、ユネスコ関係の授業受講者が授業の中での発表。および、文化祭を通じてのポスター発表である。効果としては、それを見たり聞いたりした生徒が刺激を得、次年度に受講しているケースがある。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)  
(200字程度) ※チェック事項 2-3 に対応

2年生の総合学習の時間を通じ、国際理解講演会を行った。JNGO「フリー・ザ・チルドレン」のスタッフによる講演を通じ、事前学習、事後検討会の中、国際理解に関係する経験をした。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度) ※チェック事項 2-4 に対応

姉妹校との国際交流や、留学生の受け入れを通じ、生徒同士でつながりを持っている。また、2年生のユネスコ委員に所属する生徒が大阪ユネスコスクール(ASPnet)ネットワーク主催の「日中(中日)ESD-GAP 推進国際ワークショップ」に参加し、国内外のユネスコの生徒と交流した。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）  
※チェック事項 2-5 に対応

学校教育自己診断（3年生）において、「環境、国際理解、福祉ボランティアなどの学習する機会があった」の項目で4段階評価中上から4・3点の評価が70%以上あった。また、保護者アンケートの「環境、国際理解、福祉ボランティア等についてよく学ばせていた」の回答も、提出されたなかでは高い基準値をしめした（昨年度費 10.4%向上）。

- (3) 平成30年度の活動計画（200～400字程度）

今年度も同様、授業の中および総合学科の特長を生かし、特に1年生の「産業社会と人間」、2年生の「総合学習」を軸にし、ユネスコスクールが掲げている21世紀の学習4本柱（◆知ることを学ぶ、◆試すことを学ぶ、◆人間として生きることを学ぶ、◆共に生きることを学ぶ）の育成を目標とする。

今回も「知ること学ぶこと」に強化をしたい。海外研修・留学生の受け入れ、ユネスコの理念に近い経験を生徒にさせることで、積極的に学ばせ21世紀に活躍できる人材を育成していくことを目指していきたい。